

平成 22 年度(2010 年度)

事業計画書  
収支予算書

社団法人 日本国際知的財産保護協会



## 平成22年度事業計画

### I. 事業方針

金融危機の影響は大きく、日本経済は依然として低迷が続いています。こうした情勢を反映し、知財の世界においても特許をはじめとし出願件数等が大きく減少する等の影響が生じています。

かかる行き詰まった経済状況を打破するため、産業競争力の強化が強く叫ばれています。そして、グローバル化が深化し、さらに、研究・開発の速度が著しく速まっている状況においては、研究・開発を推進する体制は自前主義から脱却し、オープンイノベーションの促進や、成長が著しい新興国との連携強化の必要性が指摘されています。

このような研究・開発体制の変化は、数多くの企業や研究機関の連携の下で開発される知財の取扱いや、技術・情報の保護管理をはじめとして、戦略的な知財の確保と活用という新たな知財に対する課題を提起しています。

また、当協会の主要事業の一つである、2010年のAIPPIの知財の国際的調和に関する議題も「デジタルコンテンツに関するフェアユース」、「国境を越えた間接侵害」、「営業秘密の保護」等、知財情勢の変化に対応したテーマが取り上げられています。

こうした状況において、協会は、企業の知財関係者、弁理士、弁護士、学者をはじめとし幅広い知財の専門家会員としているその特長を生かし、知財情勢の変化に伴う新たな課題に積極的に取り組んでまいります。

また、公益法人改革後の新たな当協会の事業を見据え、その基盤となる事業への投資を進めてまいります。

新たな取り組みとしては、知財の動向に積極的に対応していくため、イノベーション・産業競争力・技術標準等の知財政策の課題や、模造品や商標の課題、特許制度や運用に関する課題、等に関して会員の参加を募り、委員会の設立を検討・推進してまいります。

また、会員と海外の専門家との交流を促進するため、30年にわたり知財専門家間の交流を進めている「インフォパット（国際特許法務研究会）」と連携し、その活発化に努めます。

さらに、新たに知財専門家に資する出版物を企画し、出版事業の活性化に努めます。

そして、これまで、当協会に蓄積された情報を会員に還元する等、会員への

サービスを拡充いたします。

以上のように、当協会の特長とそのポテンシャルを生かし、大きく変動する知財に対する要請に対応するとともに、会員に役立ち、さらに、社会に貢献できることを目指して活動を進めてまいります。

平成22年度の具体的な事業計画は次の通りです。

## II. 事業計画の詳細

### 1. 知的財産に関する調査・研究

#### (1) AIPPI 本部の議題に対する検討

10月3日～6日に開催されるパリ総会（フランス）には以下の5つの議題が指定されました。日本部会では夫々の議題について、会員から公募したメンバーを中心に本部議題委員会を発足させ、検討を継続してまいります。

議題Q204P「知的財産権の侵害幫助責任－特許侵害の一部の側面」、  
議題Q213「特許法における有効性及び侵害に係る進歩性要件との関連で当業者が果たす役割」、  
議題Q214「商標の希釈化からの保護」、  
議題Q215「知的財産権及び不正競争防止法による営業秘密の保護」  
議題Q216「ハイテク・デジタル部門における著作権保護の例外及び著作権のある著作物の許容される使用」

AIPPI 本部に対しては4月末を目途に、5つの議題について日本部会の見解及び提言を提出します。また、会員の皆様には日本部会の見解及び提言と本部総会での議論や決議について、機関紙月報「AIPPI」に掲載すると共に、適宜報告会を開催して周知を図ります。

更には、来年の10月にインドのハイデラバードで開催される執行委員会における本部議題についても、議題が決定次第新たな議題委員会を発足させ検討を開始致します。

#### (2) 外国産業財産権制度情報の収集・整備

特許庁からの委託を受け、諸外国の産業財産権制度の最新情報を収集し、

その改正内容について翻訳を作成する事業を継続して行えるよう最大限努力致します。

(3) 産業財産権制度比較調査研究

平成22年度は以下の3つのテーマが公募されました。

- ① 「先使用権制度に関する調査研究」
- ② 「知的財産分野における情報化（IT化）協力に関する調査研究」
- ③ 「諸外国における特許権利化後の補正・訂正制度に関する調査研究」

当協会としては、専門家である会員の皆様のご協力を得て、特許庁からの受託調査事業を継続して行えるよう最大限努力致します。

(4) 外国関連出願についての外国における異議申立証拠等の調査

当協会が蓄積してきた調査技術を活かし、今年度も引き続き、受託すべく最大限努力致します。

(5) 各国の産業財産権制度・運用に関する基礎資料の作成事業

専門家である会員の皆様のご協力及びAIPPIのネットワークを利用して、今年度も受託すべく最大限努力致します。

2. AIPPI本部が行う事業への貢献

(1) パリ総会への参加

本年10月3日～6日にかけて、パリ総会が開催されます。総会では、議題の審議と共に、多くのトピックスに関するフォーラムが開催される予定です。数多くの会員の参加を得て、各国の会員との交流を深めると共に、議題の審議に当たっては、日本部会の見解が決議に反映されるように努めます。

(2) 本部活動への貢献

現在、当協会会員はAIPPI本部役員としての **Treasure General** 及び **Assistant Reporter General** と共に、**Nominating Committee**、**Program Committee**、**Membership Committee** 及び **Communication Committee** 等の本部常設委員会委員として選出され活動しております。更に、これ等の他、**Working Committee** および **Special Committee** にも数多くの会員がそのメンバーとして活躍しています。引き続きAIPPIにおける最大の会員を擁する部会としての責任を果たすべく努めます。

### 3. AIPPI 各国部会との交流

#### ① 日中韓知的財産懇談会

第9回、日中韓会合は、韓国部会が幹事国となり5月7日～9日に釜山市で開催が予定され、①各国における知財関連トピックス、②進歩性の判断基準についての議論を行います。日中韓の知的財産分野の専門家との交流と発展のために、多くの会員と共に参加を予定します。また、日中韓会合の成果を評価したAIPPI本部は、三ヶ国会合を拡大した**Asian IP Conference**を提案し、本年の日中韓会合に引き続き開催する予定となっています。

#### ② AIPLA(米国)との交流

米国の知財界を代表するAIPLAとは定期的な会合を毎年設けています。海外団体交流委員会を中心として、今年も次の3回の会合に参加して両国の知財関係者の交流を行います。東京での会合については多くの会員の参加を期待しております。

(i) 2010年4月：東京での会合。

(ii) 2010年10月：ワシントンDCでのAIPLA年次総会プレミーティング。

(iii) 2011年1月：AIPLAのMWIプレミーティング。  
(米国で開催)

### 4. 会員に向けた研修活動

#### (1) 判例研究会

平成14年4月の第1回判例研究会の開催以来、第86回を数える判例研究会は、知財専門家の交流の場として益々高い評価を得ており、参加者の増加が続いています。平成22年度も引き続き毎月の開催を計画します。

#### (2) 国際セミナーの開催

諸外国の法制度や、知財動向に関する情報を会員に提供するため引き続き毎月セミナーを開催していく計画です。欧米等の最新情報に関するセミナーを開くと共に、BRICs 諸国についても積極的に取り上げていく計画です。

### (3) インフォパット（国際特許法務研究会）との連携

海外の知財専門家との交流を進めているインフォパット（国際特許法務研究会）の事務局機能を当協会が担うことで、会員の皆様の国際交流活動の場を広げ、欧米等の最新情報をより迅速かつタイムリーに会員に提供する体制を強化します。

## 5. 出版事業

月刊「AIPPI」（毎月発行）には、議題委員会の活動報告やセミナーの開催内容等、当協会の活動状況を掲載し、会員への情報提供を強化します。英文ジャーナル「AIPPI」（隔月発行）については、諸国の新たな動向、トピックスを引き続いて取り上げてまいります。また「外国工業所有権令集」、「外国出願のためのマニュアル」等の刊行物をさらに継続・充実させると共に、新しい出版物の発行を計画し、当協会の特色である外国知財情報提供の充実に努めます。また、既に第3版まで発行している「有名商標集」については、発行から5年を経過しておりますので会員専門家の協力を得ながら改訂版発行を検討致します。

## 6. 特許庁業務への支援

当協会が有する国際的な知財情報に関する蓄積やポテンシャルを生かして、特許庁における国際出願事務処理業務や翻訳業務を受注できるよう努力します。

## 7. AIPPI・中松記念スカラシップ

今年度も継続して、大学、大学院等で知的財産権法を学習・研究するアジアからの留学生を対象に、公募により応募者を募り、選定委員会により最大2名を選び奨学金を贈与し、アジアの知財人材の育成を図ります。

## 8. 委員会活動

現在ある本部議題委員会（5つの議題委員会）、他の団体との交流に関する海外団体交流委員会、会誌編集委員会、判例研究会ワーキンググループとは別に、既に始動している「パブリックコメント委員会」に加え、新たなテーマについて、会員参加による複数の委員会を設立し、新しい活動にチャレンジすることで会員相互間のコミュニケーションを促進し、当協会全体の活動の活性化を図ります。

以上

# 収 支 予 算 書

一般会計

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位:千円)

	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 会費収入	51,000	53,000	▲ 2,000	1,067名/社
② 事業収入	407,530	478,294	▲ 70,764	
1)国際会員費収入	15,360	17,600	▲ 2,240	CHF160
2)会誌協賛収入	9,000	9,925	▲ 925	
3)国際セミナー等収入	3,500	5,000	▲ 1,500	
4)調査研究受託等収入	155,070	221,133	▲ 66,063	
5)出版事業収入	135,000	135,000	0	
6)派遣事業収入	89,600	89,636	▲ 36	
③ 雑収入	50	51	▲ 1	
雑収入	50	51	▲ 1	
④ 特定預金取崩収入	0	0	0	
事業活動収入計	458,580	531,345	▲ 72,765	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出	404,144	472,947	▲ 68,803	
1)国際会員費支出	15,360	17,600	▲ 2,240	
2)会誌刊行費支出	22,500	24,000	▲ 1,500	
3)国際セミナー等開催費支出	5,000	5,000	0	
4)調査研究費支出	152,184	214,497	▲ 62,313	
5)出版事業支出	113,000	115,714	▲ 2,714	
6)派遣事業費支出	89,600	89,636	▲ 36	
7)委員会等活動費支出	6,500	6,500	0	
② 管理費支出	53,936	57,898	▲ 3,962	
人件費支出	33,250	35,953	▲ 2,703	
その他管理費支出	20,686	21,945	▲ 1,259	
事業活動支出計	458,080	530,845	▲ 72,765	
事業活動収支差額	500	500	0	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計				
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計				
2. 財務活動支出				
財務活動支出計				
財務活動収支差額				
IV 予備費支出	500	500	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	23,056	22,056	1,000	
次期繰越収支差額	23,056	22,056	1,000	

(注) 1. 短期借入金限度額 1億円  
 2. 債務負担額 0円

## 収 支 予 算 書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位:千円)

	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 事業収入	385	300	85	
日中韓知的財産懇談会収入	0	0	0	
判例研究会収入	385	300	85	
海外団体交流会収入	0	0	0	
② 雑収入	0	0	0	
受取利息収入	0	0	0	
事業活動収入計	385	300	85	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出	5,900	4,700	1,200	
判例研究会支出	3,700	3,200	500	
AIPPI・中松記念スカラーシップ支出	2,200	1,500	700	
事業活動支出計	5,900	4,700	1,200	
事業活動収支差額	▲ 5,515	▲ 4,400	▲ 1,115	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	▲ 5,515	▲ 4,400	▲ 1,115	
前期繰越収支差額	52,366	56,766	▲ 4,400	
次期繰越収支差額	46,851	52,366	▲ 5,515	

(注) 1. 短期借入金限度額 1億円

2. 債務負担額 0円

## 平成22年度収支予算書総括表

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位:千円)

	一般会計	東京総会特別会計	合 計
<b>I 事業活動収支の部</b>			
1. 事業活動収入			
(1) 入会金収入	0	0	0
(2) 会費収入	51,000	0	51,000
(3) 事業収入	407,530	385	407,915
(4) 雑収入	50	0	50
(5) 特定預金取崩収入	0	0	0
事業活動収入計	458,580	385	458,965
2. 事業活動支出			
(1) 事業費支出	404,144	5,900	410,044
(2) 管理費支出	53,936	0	53,936
事業活動支出計	458,080	5,900	463,980
事業活動収支差額	500	▲ 5,515	▲ 5,015
<b>II 投資活動収支の部</b>			
1. 投資活動収入	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出	0	0	0
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
<b>III 財務活動収支の部</b>			
1. 財務活動収入	0	0	0
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出	0	0	0
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
<b>IV 予備費支出</b>	500	0	500
当期収支差額	0	▲ 5,515	▲ 5,515
前期繰越収支差額	23,056	52,366	75,422
次期繰越収支差額	23,056	46,851	69,907

(注) 1. 短期借入金限度額 1億円  
 2. 債務負担額 0円

# 役員 の 選 任

社団法人 日本国際知的財産保護協会



## 役員を選任

(敬称略)(五十音順)

### 理事候補者(4名)

岩崎 重美	(株)日立製作所知的財産権本部戦略企画室長
越智 謙二	一般財団法人日本特許情報機構理事長
西本 裕	日本電気(株)知的資産統括本部長
米倉 弘昌	(社)日本経済団体連合会会長

### 次の方は理事を退任される予定です。(4名)

江村 克己	日本電気(株)知的資産統括本部長
荻野 誠	(株)日立製作所知的財産権本部戦略企画室長
林 昭彦	一般財団法人日本特許情報機構前理事長
御手洗 富士夫	(社)日本経済団体連合会会長

## 役員名簿

(敬称略、五十音、○印新任)

### 理事(47名)

青木 篤	弁理士
秋元 浩	知的財産戦略ネットワーク(株) 代表取締役
浅村 皓	弁理士
生島 博	東京都知的財産総合センター 所長
石田 敬	弁理士
稲田 仁士	三菱商事(株) 法務部長
○ 岩崎 重美	(株)日立製作所 知的財産権本部戦略企画室長
内川 英興	三菱電機(株) 役員理事・知的財産センター長
梅田 五郎	当協会常務理事・事務局長
江崎 正啓	トヨタテクニカルディベロップメント(株) 常務取締役
岡部 譲	弁理士
奥村 洋一	武田薬品工業(株) 知的財産部長
奥山 尚一	弁理士
○ 越智 謙二	一般財団法人日本特許情報機構 理事長
片山 英二	弁護士
金川 千尋	信越化学工業(株) 会長
川田 洋輝	(社)発明協会 理事長
木村 敬治	ソニー(株) 執行役 EVP兼知的財産担当
窪田英一郎	弁護士
熊倉 禎男	弁護士
黒木 啓介	新日本製鐵(株) 代表取締役副社長
近藤 惠嗣	弁護士
榊原 定征	東レ(株) 代表取締役社長
佐々木 剛史	トヨタ自動車(株) 知的財産部長
清水 啓助	当協会理事長
鈴木 俊昭	富士フイルム(株) 執行役員R&D統括本部知的財産部長
竹内 耕三	弁理士
田中 信義	キャノン(株) 顧問
谷 義一	弁理士
辻居 幸一	弁護士
筒井 大和	日本弁理士会会長
富野 直樹	(株)ニコン 知的財産企画部顧問エグゼクティブフェロー
中山 喬志	日本知的財産協会 専務理事
○ 西本 裕	日本電気(株) 知的資産統括本部長
萩原 恒昭	凸版印刷(株) 法務本部長
福島 能久	パナソニック(株) 役員・知的財産権本部長
前田 純博	弁理士
丸島 儀一	弁理士
宮内 弘	(株)東芝 知的財産部長
椋田 哲史	(社)日本経済団体連合会 常務理事
村木 清司	弁理士
森田 清	第一三共(株) 代表取締役会長
柳生 一史	味の素(株) 理事・知的財産部長
八島 英彦	三菱化学(株) 理事・知的財産部長
矢部 耕三	弁護士
吉武 賢次	弁護士
○ 米倉 弘昌	(社)日本経済団体連合会 会長

### 監事(2名)

清水 徹男	弁理士
社本 一夫	弁理士

通常総会後に引き続いて開催されました理事会において、理事の互選により、会長が次の通り選任されました。

(敬称略)

会 長      米 倉 弘 昌

以上